

中国 = 高速鉄道時代に突入 = 営業距離 3300 ㎞を超える

2月18日に鉄道部の公式サイトが伝えたところによると、中国の高速鉄道の営業運転距離が 3300 ㎞を超えた。長さや技術の両面ですでに世界の最前列に立っている。2009 年末から今年 2 月にかけて武漢 - 広州、鄭州 - 西安の 2 本の高速鉄道が完成し、最高時速 350 ㎞で運行されている（本紙第 1876 号、第 1880 号）。その外、すでに主要都市を結ぶ北京 - 天津、青島 - 済南、合肥 - 武漢、合肥 - 南京等の各線が開通している。（別表参照）

中国における「時速 200 ㎞以上、動力分散方式、旅客専用」の本格的高速鉄道の第 1 号は、2003 年 10 月に開通した秦皇島 - 瀋陽間旅客専用線であり、わずか数年の間に急速に建設が進んだ。2004 年に発表され、2008 年に上方修正された「中長期鉄道網計画」によれば 2020 年までに旅客専用高速鉄道 1 万 6000 ㎞を建設する。

現在建設中の高速鉄道数本はいずれも今後数年で完成する。そのうちのひとつ、北京 - 上海線は全長 1381 ㎞で、2008 年 4 月に着工しており、約 5 年で完成予定。北京 - 上海間がこれまでの約 12 時間から 5 時間に短縮される。

中国の高速鉄道網建設は「四縦四横」といわれる南北の四旅客専用幹線（北京 - 上海、北京 - 武漢 - 広州 - 深圳、北京 - 瀋陽 - ハルビン、杭州 - 福州 - 深圳）と東西の四旅客専用幹線（徐州 - 鄭州 - 蘭州、杭州 - 長沙 - 昆明、青島 - 石家荘 - 太原、南京 - 武漢 - 成都）

短距離都市間高速鉄道、既存鉄道の複線化・高速化、西部地区の新線開発、海峡西岸（福建省）鉄道の 5 方面から推進される。中国はいよいよ高速鉄道時代に突入したといえる。

中国政府の 4 兆元に上る景気刺激策で、2009 年の鉄道の投資は前年比 80% 増の 6000 億元に達した。2010 年には 8235 億元を投資して、4000 ㎞を建設し、鉄道の総延長を 9 万 ㎞に延ばすことを計画している。